

# 『幼稚園の現場から』

## IX・おやこんぼプロジェクト

原町幼稚園（静岡県沼津市） 園長 鶴谷主一



みなさん、こんにちは！

ぼく、**くまんぼ**って言います。

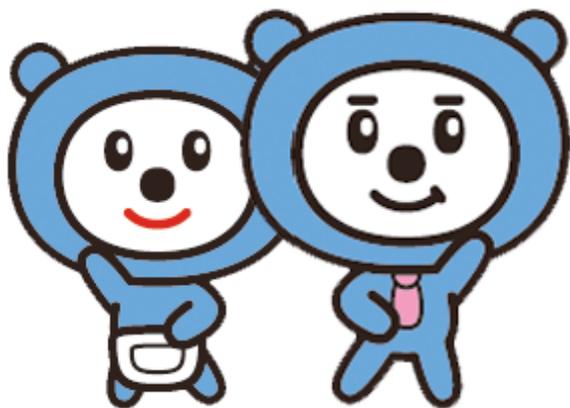
生まれたのは2008年の12月。

家族の絆を強くするって言うと大げさだけど、親子に愉快的な時間を提供しよう！っていう目的で生まれました。

まだ3歳だから、これからおおきくなっていくんだけどね、、今日は皆さんにもちょっとご紹介しちゃおうってわけ☆

まずは、ぼくの家族を紹介するね！

**くまんぼママ**と**くまんぼパパ**、3人家族なんだ。



みんな家族がいて、

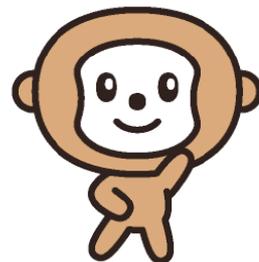
「おやこんぼむら」に住んでいるんだ。

友達も紹介するね！

**さるんぼ**

**ぶたんぼ**

**うさんぼ**



## ■おやこんぼプロジェクト までの道のり

平成 23 年度の沼津市内の幼児（3 歳～5 歳）の割合を見ると、保育園児約 30%、幼稚園児 70%です。さらに 70%の幼稚園児のうち、97%の約 3,500 人の園児は私立に通っています。沼津市は極端に公立幼稚園の少ない地域なのです。

沼津市の私立幼稚園 23 カ園が集まって、「沼津市私立幼稚園協会」を組織しており、主に教員や保護者の研修会などを計画しています。

どの幼稚園も公的補助を得て経営をしている学校法人という性格上、公の教育的活動、啓蒙活動をしていくことは責任として必要なことだと考えています。



そんなこともあって、今から 7 年前の 2005 年には、「早寝早起き運動」に取り組んできました。保育園も含めた全世帯の調査をし、早寝早起きの大切さをアピールしてきました。そこでわかったのは、ほとんどの幼稚園児はきちんと早寝早起きをしていたということで、安心したのですが、一部の生活リズムの悪いお子さんの生活習慣に見られたのが「幼児期からの過度なメディア接触」でした。テレビやビデオを夜遅くまでだらだら観てしまうために朝起きられない。

それでは、と「子どもとメディア問題」に取り組んで、幼児期からの過度なメディア接触の害を伝えていこうと、ノーテレビデーなどの運動に取り組みましたが、どうしても固いイメージで、とっつきにくい活動になり長続きしません。

とくに、普段からこういった運動の輪に加わらない意識の低い家庭への誘導こそ必要で、工夫しなければ

ならないところでした。

時は 2008 年、それまでの国のエンゼルプラン、少子化対策などで、育児支援という名のもとに、子育ての外注がぐんぐん進められていく流れの中、幼稚園という、比較的恵まれた家族環境の中で育まれている子どもたちと接している私たちがさえ、「親子の絆の弱さ」を感じはじめた園長たちした。

なんとかメディア問題と親子の絆の問題をうまくつなげて考えられないか話し合いをしました。

残念ながら私たち教育関係者ばかりでは、「教育的意義」や「啓蒙する！」という固さからなかなか抜け出せない。そこで、このマガジン「街場の就活論」を書いている団遊さんの会社「アソブロック」から柔軟な発想のもと協力を得ることにしました。

ここで提示されたキーワードは「間口を広げる」でした。みんなが「おもしろそう!」「やってみよう!」と感じる活動で、「やってて楽しく」、*かんたん*で長続きすること・・・

途中経過は省きますが、私たち幼稚園サイドとアソブロック社とその協力者の皆さんにより、「おやこんぼプロジェクト」が完成し、沼津市内の 23 カ園で、3 年と息の長い活動を続けていくことができたのです。単純に計算して約 6,800 人の子どもたちに「おやこんぼ」を体験させることができたのです。

そして、今年度からは静岡県私立幼稚園振興協会の事業計画において、静岡全県の私立幼稚園 240 カ園にこの取り組みが広がることになりました。一気に 40,000 人の子どもたちに！とりたいところですが、そこは私立の自主性に任せていますので徐々に広がっていくことになるでしょう。

これを機会に、マガジン読者の皆さんへも「おやこんぼプロジェクト」を紹介し、気に入って頂けたら、まずは「**おやこんぼ**」という言葉を使って頂き、もうちょっと積極的にやってみようかという方は、ご自分の家族や施設、地域でも取り組みを広げて頂きたいと願っています。



## ■おやこんぼプロジェクト

「おやこんぼってなんだ?」と思ってヤキモキして読んで頂いた皆さん、ゴメンナサイ。まずは、このネーミングの説明から。

**☆おやこ+コンボ (小編成のジャズ楽団) という造語で、一緒に楽しくやろうよ! という意味、加えて“くいしんぼ”“おいしんぼ”などのようにそのことが好き! という意味合いも込めています。**

たとえば、このような使い方をします。

- 子どもが…ねえねえ、おやこんぼしよう!
- お母さんが…こんどの日曜、近所の公園でおやこんぼしない?
- お父さんが会社で…今日はおやこんぼの約束だから早めに帰ります!

全国で「家族サービス」という言葉のかわりに使って頂けたらいいなと思ってます。

楽しさを前面に出して行うおやこんぼですが、その目的とするところをまとめておきます。

### ○おやこんぼプロジェクトの目的

1. 乳幼児期という短いけれども親子の絆を形成する上でとても大切な時期を意識してもらうこと。
2. そして絆を強くするための、家族のふれあう時間 (大切な時間) に気付いてもらうこと。
3. 親子のふれあう時間を大切にする意識を高め、家庭でその時間をつくり、過ごしてもらう。
4. 親子という単位から、地域や子育てサークルのような広い範囲の絆作りへと広げていく。

### ○期待できる効果

- 1) 親子関係が良好になり、子育ての楽しさがより高められること。
- 2) 父親が子育てに積極的に参加することにより、母親の育児ストレスの軽減。
- 3) 家族のきずな強化。
- 4) 親に大切にされたという記憶が形成される。→自己肯定感、情緒の安定
- 5) 親子関係が良好になり、早寝早起き、食事などの生活リズムが安定する。

### ○さらに

- 6) 幼稚園入園児の発達が健全化される。→良い保育ができる。
- 7) 家庭養育、幼稚園教育への理解が高まる。→幼稚園の存在意義。
- 8) なにより子どもたちの健全な発達が促され、健全な社会の構築に役立つ。



## ■テレビを消しておやこんぼ

おやこんぼプロジェクトには、様々な盛り上げグッズが作られて、活動の継続に力を発揮していますが、やることはいたってシンプルです。

**毎月 15 日に、テレビを消して  
テレビを消して生まれた時間で  
親子でなにか楽しいことをする！  
これだけなんです。**

静岡県内では、毎月 15 日に幼稚園児の家庭で、楽しいおやこんぼが繰り広げられているのです。みんなで作っている、というのが連帯感を高めて良いのかもしれない。

- ・親子で絵本を読んだ
- ・一緒に夕飯を作った
- ・お父さんが早く帰ってきて遊んでくれた
- ・近所におさんぽに行った
- ・カルタとりをした

などなど、報告されてくる活動は、なにか特別なことをしているわけではありません。

- ・テレビを消してこんなにゆったりした時間が持てることに気がきました。
- ・この日はお母さんのパートは入れないで家族で過ごす日としています。
- ・わが家では 15 日だけでなく毎日おやこんぼの日にしました。
- ・子どもがおやこんぼを楽しみにしています。

こんなふうに家族の大切な時間に気付いてもらえたという嬉しい報告も得られています。

## ■仕掛けいろいろ

シンプルな活動でも、それを始めさせ、継続させるにはいろいろな仕掛けが必要ですが、ここでは簡潔にご紹介します。

- 1：子どもがテレビを消したくなるアイテム**  
〔紙芝居…園で先生が読んであげると…家に帰って子どもが自らテレビのスイッチを消します〕



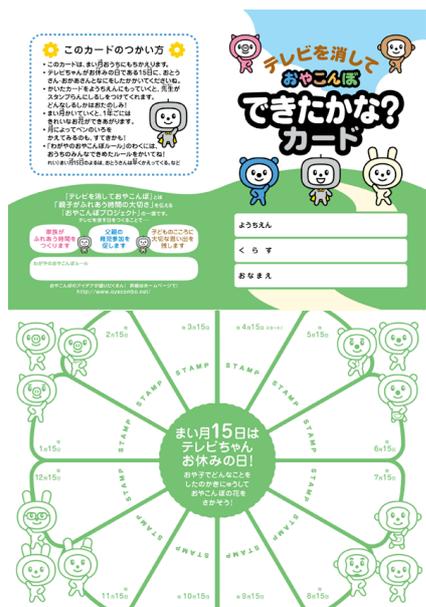
- 2：やりたくなるアイテム**  
〔テレビをお休みさせるかわいいバンダナ〕



- 3：続けたくなるアイテム**  
〔できたかなカードに記入して園の先生に報告！→がんばったねスタンプを押してもらえます〕



〔親子であそべるカードゲーム〕



詳しく知りたい方は、私の園やアソブロック社にお問い合わせ下されば嬉しいです。

oyako-hoホームページ：

<http://www.oyacombo.net/>

4：盛り上げグッズ

〔15日に園の前に立てる幟〕



○全国に「oyako-ho」を広め、oyako-hoの思い出をしっかりとった大人が育ててほしい！こんな社会活動も子どもたちを育てる幼稚園としての仕事だと思うのです。

学校法人松濤学園 原町幼稚園

園長 鶴谷主一

幼稚園勤務29年（内園長10年）

<http://www.haramachi-ki.jp>

5：お楽しみグッズ

〔1年のさいごにもらえるごほうびシール〕



ツルヤシュイチ